

●世界の主な地震

平成 27 年（2015 年）3 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

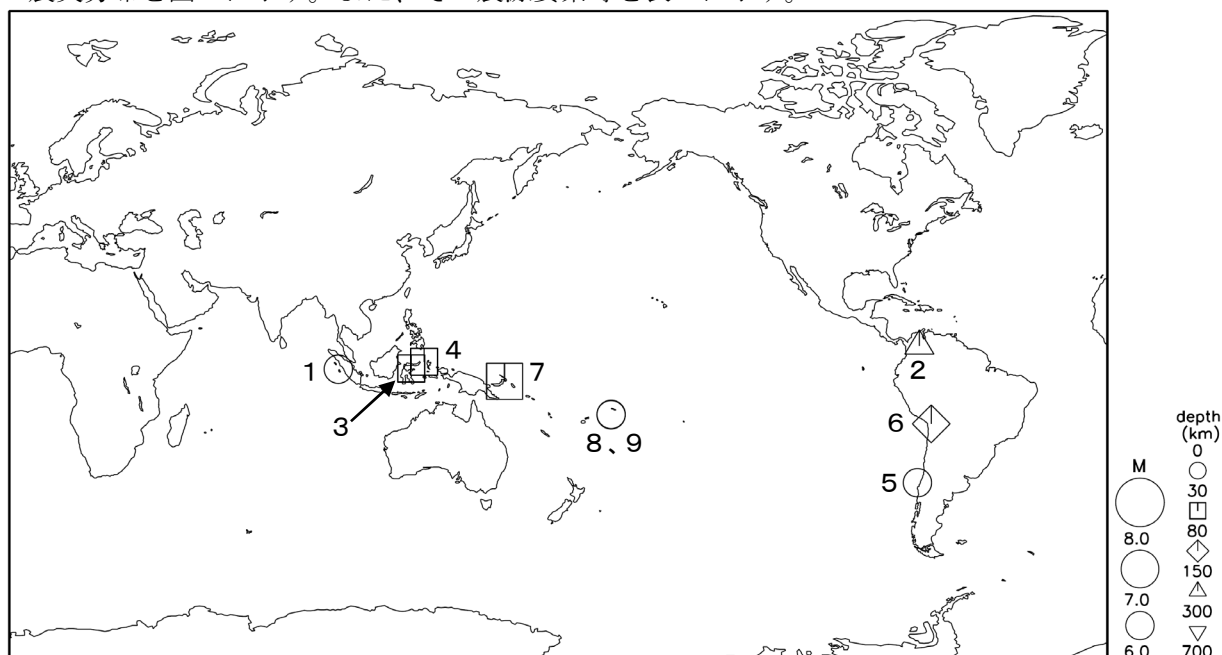


図 1 平成 27 年（2015 年）3 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

- * : 震源要素は米国地質調査所 (USGS) ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2015 年 4 月 2 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素は気象庁による。
- ** : 数字は、表 1 の番号に対応する。
- *** : マグニチュードは表 1 の mb (実体波マグニチュード)、Mj (気象庁マグニチュード)、Mw (モーメントマグニチュード) のいずれかを用いて表示している。

表 1 平成 27 年（2015 年）3 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	03月03日19時37分	S 0° 46.1′	E98° 39.7′	28			6.1	インドネシア、スマトラ南部			
2	03月11日05時55分	N 6° 46.1′	W 72° 59.7′	158			6.2	コロンビア北部			
3	03月16日08時17分	S 0° 32.1′	E122° 18.6′	30			6.1	インドネシア、スラウェシ、ミナハサ半島			
4	03月18日07時12分	N 1° 39.4′	E126° 29.4′	46	6.2			モルッカ海北部		○	
5	03月19日03時27分	S36° 05.8′	W 73° 37.5′	10			6.2	チリ中部沿岸			
6	03月23日13時51分	S18° 23.0′	W 69° 08.7′	121	6.4			チリ北部			
7	03月30日08時48分	S 4° 45.7′	E152° 33.6′	41			(7.4)	パプアニューギニア、ニューブリテン	ソロモン諸島のタロ島で3cmの津波を観測	○	○
8	03月30日17時18分	S15° 23.2′	W172° 54.2′	12			6.4	サモア諸島			
9	03月30日17時48分	S15° 30.8′	W172° 56.4′	16			6.5	サモア諸島			

- 震源要素は米国地質調査所 (USGS) ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2015 年 4 月 2 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
- 海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁 (NOAA) による。
- 地震発生時刻は日本時間 [日本時間 = 協定世界時 + 9 時間] である。
- 「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (地震・火山月報 (防災編) 2005 年 5 月号参照) を発表したことを表す。
- 「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

3月30日 パプアニューギニア、ニューブリテンの地震

2015年3月30日08時48分（日本時間、以下同じ）にパプアニューギニア、ニューブリテンの深さ41kmでMw7.4の地震が発生した。この地震は発震機構（気象庁によるCMT解）が、南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートの境界付近で発生した。

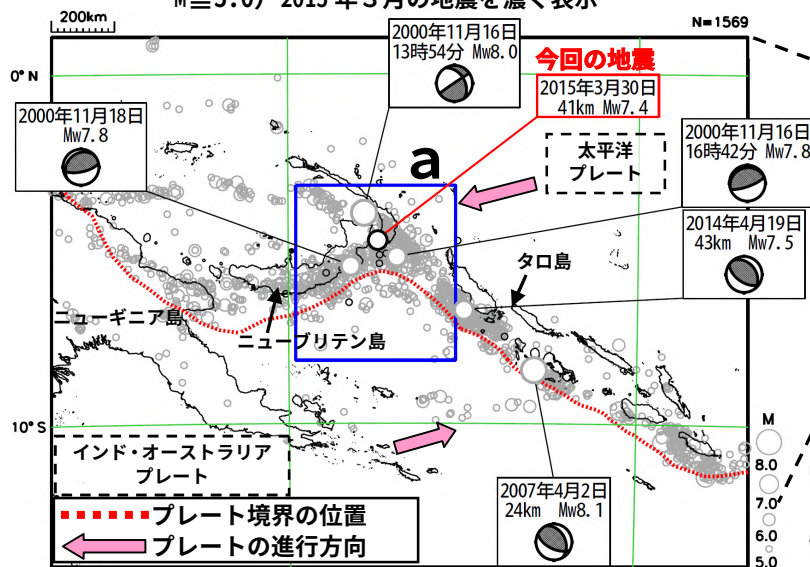
気象庁は、同日09時14分に遠地地震に関する情報（日本国内向け、「太平洋で津波発生の可能性あります。日本への津波の有無については現在調査中です。」）を、同日10時22分に遠地地震に関する情報（日本国内向け、「この地震による日本への津波の影響はありません。」）を発表した。この地震により、ソロモン諸島のタロ島で3cmの津波を観測しました。

2000年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、2000年11月16日にMw8.0、Mw7.8、11月18日にMw7.8の地震が連続して発生し、11月16日のMw8.0の地震では、死者2人、住家被害多数の被害を生じている。

1970年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（左下震央分布図内）では、M7.0以上の地震が頻繁に発生している。1998年7月17日のMw7.0の地震では、死者2700人の被害を生じている。

震央分布図

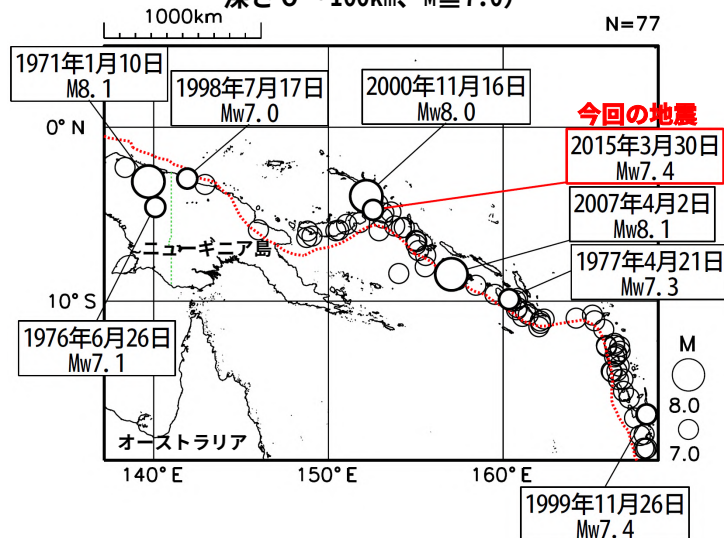
（2000年1月1日～2015年3月31日、深さ0～100km、 $M \geq 5.0$ ）2015年3月の地震を濃く表示



プレートの進行方向は、インド・オーストラリアプレートと太平洋プレートをそれぞれ固定した場合の相対的な方向である。

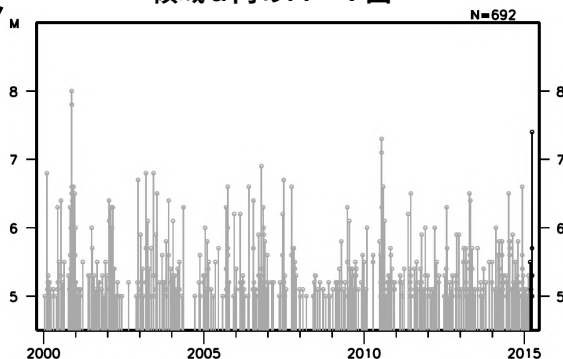
震央分布図

（1970年1月1日～2015年3月31日、深さ0～100km、 $M \geq 7.0$ ）

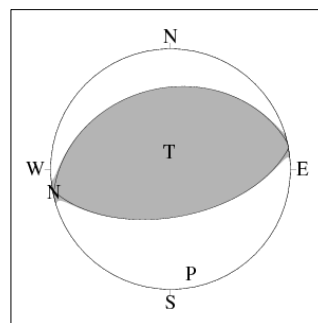


今回の地震、M8.0以上の地震と、10人以上の被害を生じた地震に吹き出しを付けた。

領域a内のM-T図



今回の地震の発震機構
（気象庁によるCMT解）



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の発震機構とMwはGlobalCMTによる。震源要素は米国地質調査所（USGS）による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁（NOAA）による（2015年4月2日現在）。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成